かたりべ146

豊島区立郷土資料館・芸術文化推進グループだより

―おぼえていますか？ 在りし日の豊島区役所―

①落成当時の豊島区総合庁舎
（『写真でみる豊島区50年のあゆみ』より）

②閉庁式直前の旧庁舎玄関に掛けられた看板
（総務課提供）

ここでは、八月一日から開催の収蔵資料展の中から、展示担当イチオシの資料「旧庁舎の看板」をご紹介いたします。

戦時中、空襲により焼失した豊島区役所の庁舎は、戦後間もない昭和二四（一九四九）年に再建されます。しかし、戦後の資材不足の中、竣工した木造二階建ての庁舎は老朽化や区の人口増加などにより、建て替えが必要になりました。

建設用地決定には紆余曲折がありましたが、庁舎は昭和三六（一九六一）年七月二四日に落成（写真①）。鉄筋コンクリート造四階建ての総合庁舎は、千代田区と文京区に次ぐ都内で三番目の規模を誇りました。

総合庁舎（旧庁舎）は池袋駅東口前を通る明治通り（都道三〇五号線）に面しており、正面玄関には左記の順に計五枚の看板が設置されていました（写真②）。

東京都豊島区役所
東京都豊島区議会
豊島区教育委員会
東京都豊島区選挙管理委員会
東京都豊島区監査委員

旧庁舎は平成二七（二〇一五）年五月一日に閉庁式が催され、看板の取り外しも行われました。また、現庁舎の開庁式は同月七日に実施され、旧庁舎は区役所としての役割を終えました。旧庁舎解体後、エリア一帯はHarezza（ハレザ）池袋として整備され、その跡地には現在、オフィスと映画館を有する高層ビル「ハレザ・タワー」（地上三三階、地下二階）がそびえ立っています。

「旧庁舎の看板」の展示コーナーは、昨年一〇月から今年五月まで開催された区制九〇周年特別展「豊島大博覧会」、そこで取り上げた旧庁舎の展示のエピローグと位置付けています。実際に旧庁舎を利用なさっていた方には懐かしさを感じていただき、また、初めてご覧になる方には当時の旧庁舎の姿に思いを馳せていただけましたら、幸いです。

（郷土　清水健太）

【参考】豊島区役所編『豊島区勢概要　昭和三二年版』豊島区、一九五八年。豊島区企画部広報課編『写真でみる豊島区五〇年のあゆみ』一九八二年。豊島区史編纂委員会編『豊島区史　通史編三』豊島区、一九九二年。

2023年度収蔵資料展

「関東大震災１００年、新着資料展」

２０２３年８月１日（火）～１０月８日（日）

＊開館時間：午前９時～午後４時３０分　　＊入館無料

＊休 館 日：月曜日、第３日曜日、祝日、９月19日

今年は関東大震災から一〇〇年を迎えます。今回の収蔵資料展では、当館が所蔵する関東大震災に関する文書、絵葉書、雑誌、書籍等を通して、関東大震災の影響とその後の復興の様子を振り返ります。あわせて、近年当館に寄贈された主な資料と昭和三〇年代から平成にかけて区内を撮影した懐かしい写真を紹介します。

■関東大震災一〇〇年

大正一二（一九二三）年九月一日の午前一一時五八分に発生した、神奈川県の相模トラフを震源域とするマグニチュード七・九の関東大震災は、家屋被害が全半壊・焼失を含めて三七万二千余棟、死者・行方不明者は一〇万五千人余を出す大災害でした。東京の下町界隈や日本橋、銀座付近などでは大火が生じましたが、現在の豊島区内は死者一一名、負傷者一〇名、全半壊・全焼一〇一戸と被害そのものは比較的小規模でした。

巣鴨二丁目から見た関東大震災の猛煙
荒井常雄氏寄贈

■被害を伝える雑誌

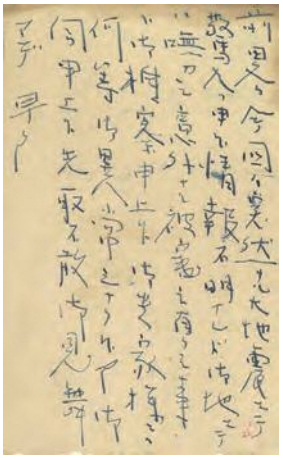
『歴史写真　関東大震大火記念号 第壱巻』
（遠藤コレクション）

関東大震災の場合、その発生後に被害状況を撮影したグラフ雑誌が多く発売されました。当館所蔵の『歴史写真　関東大震大火記念号 第壱巻』もそのひとつです。このグラフ雑誌は震災翌月の一〇月一日に発行された『歴史写真』の特集号で、東京市内のみならず、横浜・横須賀の被災状況が掲載されており、震災の惨状がわかります。

■震災見舞のはがき

西巣鴨の野菜種子卸問屋である榎本留吉商店には、関東大震災の発生後に全国の取引先から自らの無事を知らせるとともに、榎本家の安否を気遣う震災見舞のはがきが多く届けられました。

なかには、下野国鹿沼町（現・栃木県鹿沼市）の旅館が、九月一日付で留吉宛へ送った見舞のはがきがあります。震災発生当日には、すでに見舞の手紙を送っていたことは注目されます。



九月一日付の震災見舞のはがき
（榎本泰吉家文書）

■帝都復興記念章

関東大震災からの復興に着手すべく、震災から約ひと月後の九月二七日に、内閣総理大臣直属の政府機関として、「帝都復興院」（のちに内務省復興局、復興事業局に改組）が設置されました。初代総裁には内務大臣の後藤新平が就任し、主に東京（帝都）、横浜の復興事業に取り組みました。

昭和五（一九三〇）年、内務省復興局による帝都の復興事業が完了したことを機に、この事業に携わった関係者へ「帝都復興記念章」が授与されました。

今回はこのほか、当館所蔵のさまざまな資料から被害、救済、復興という震災後の一連の動向を展示しています。

帝都復興記念章　田崎不二夫氏寄贈

■豊島区庁舎の変遷

昭和七（一九三二）年一〇月一日に豊島区が誕生した際、区役所として使われた旧荒玉水道町村組合役場から、戦後焼け跡に再建された木造二階建ての庁舎、昭和三六（一九六一）年に竣工した鉄筋コンクリート造四階建ての総合庁舎、そして平成二七（二〇一五）年に移転新築されたとしまエコミュージアムまで、約九〇年間にわたる区庁舎の変遷を、写真と所蔵資料で紹介します。本号表紙で紹介した旧庁舎の看板は、今年一月に総務課から譲渡された今回の目玉資料です。

■新着資料の紹介

区制九〇周年特別展「豊島大博覧会」会期中に、見学者や区民（元区民を含む）の方から、資料の寄贈の相談が多くありました。当館では「豊島区立郷土資料館資料収集管理要綱」に基づき、資料調査を行い、収集基準と保存状態、活用方法等を検討した上で寄贈の手続きを行っています。今回は令和三～四年度に寄贈された資料を中心に展示しています。ここでは主な資料をご紹介します。

■山田敬伸氏寄贈資料

祖父で日本画家の山田敬中、父で同じく日本画家の山田申吾が使用していた作品制作の道具類を中心に展示しました。申吾が切手の図案審議委員を務めていた関係で、郵政省関係の資料なども含まれています。

■渡邉好弘氏寄贈資料

祖父が収集していた陶製酒樽と通い徳利のほか、大正初年の『写真通信』、関東大震災復興記念の写真集『震災ヨリ復興へ』、母親が小学校時代に使った『暗記用小学地理かるた』（昭和一三年）、池袋・飯能間開業六〇周年記念乗車券などを展示しています。

■秋元美子氏寄贈資料

秋元さんが長崎第三国民学校四年生の時、山形県東根町（現東根市）に集団疎開した体験と戦後の思い出を著した『私の集団疎開』（文芸春秋）に紹介された資料が中心です。疎開先に持っていったビーズセットや家族に宛てた葉書や手紙、戦後の縁日で初めて買ってもらった人形、小・中学校の通信簿や校歌など、戦中・戦後の生活と教育を知る資料として注目されます。

■小杉昌子氏寄贈資料

西巣鴨第三国民学校一年生の時に縁故疎開で新潟県中頸城郡内の国民学校に転校した前後の通信票は、すべて再生紙を使った謄写版で、戦中・戦後の紙不足の時代背景も伺い知ることができます。

■岡田行弘氏寄贈資料

都電大塚車庫が取り壊される際に岡田氏自身が貰った都電側面板（一六・一七系統）をはじめ、池袋の百貨店の懐かしいデザインの包装紙や区内飲食店等のマッチの空き箱を展示しています。

■その他の注目資料

昭和二〇（一九四五）年四月一三日の空襲で焼失した巣鴨七丁目（現南大塚二丁目）の自宅の焼け跡から掘り出した陶製の貯金箱（藤本米子氏寄贈）は戦災資料として貴重なものです。

郷土資料として注目されるのが、『郊外画報』（松本秀樹氏寄贈）です。昭和初年の長崎町の景観や公共施設、商店などの写真と旧家の紹介が掲載されています。また戦後、区立中学校教育研究会社会科研究部の先生たちが社会科副読本として編集した『わが豊島』（宮地俊氏寄贈）は、豊島区の歴史と発展する池袋の記述が興味を引きます。

■変わりゆく池袋

上野誠氏撮影の写真は、昭和三六～三九年の夜の池袋駅東口界隈を撮影した珍しい写真です。年末の百貨店と商店街の賑わいや、岡本太郎作のクリスマス用モニュメントが立つ夜景は幻想的です。

カメラマンの永島浩二氏が撮影した昭和三〇年代後半から平成・令和にかけての池袋駅西口の景観変化がわかる写真は、モノクロからカラーに変わった時期を知る上でも興味深いものです。六〇年前の池袋と再開発が進む現在の姿を比べながらご覧ください。

展示風景

（郷土　岡崎佑也、秋山伸一、横山恵美）

歩いてみる美術1

池上アトリエ

強い日差しで日傘は欠かせないものの、まだ湿度が高くないさわやかな五月のある日。彫刻家池上璉（一九〇四―九一）の作品をお預かりするために、池上が住み、娘である喜久子（一九三四―二〇二二）も暮らした豊島区内のアトリエにうかがいました。

豊島区美術家協会の皆様に池上父娘の作品を紹介されて以来、何度かお邪魔させていただいた池上アトリエは、谷端川の南緑道沿いにあります。すでに二人とも鬼籍に入っておられますが、入り口近くに敷きこまれたタイルやガラス絵が目を引く外観です。それらは喜久子や彼女の陶芸教室の参加者たちの作品で、一歩中に入れば焼き物の窯があり、彫刻が置かれていました。けれどこのアトリエのすごさには、しばらく気が付かないままでした。

アトリエは、豊島区の美術文化の根幹をなす、と言っても過言ではありません。「池袋モンパルナス」という言葉も、アトリエなしには生まれなかったでしょう。

ここで言うアトリエとは、制作をするための場であり、それを持った建物のことです。一九三〇年代から多くは貸家として建てられはじめ、それらがいくつか集まったものがアトリエ村と呼ばれました。当時の豊島区域の長崎村にあったことから、それらすべてを長崎アトリエ村、と称しもしますが、それぞれのまとまりごとにすずめが丘、つつじが丘などと冠され、さくらが丘に関してはパルテノンと言われることもあります。

右：北側の屋根と壁面に大きく窓が採られていたことがはっきりわかる。奥に写るのは境橋。手前に渡された丸太は、何が渡るためのものだろうか。個人蔵。　**左**：2023年5月現在の様子。急角度の屋根は当時と変わらない。屋根に見られる白い部分は、明り取り窓のなごり。谷端川はレンガ敷きの緑道として親しまれている。◎写真の無断転載を禁じます◎

こうしたアトリエはすでに九〇年の時が経ち、今も残るアトリエはわずかしかありません。池上アトリエも内部からはアトリエの特徴である北向きの窓も見えず、たび重なる改築がなされていました。しかしある一枚の写真（右）によって、注意深く観察することの大切さを思い知ります。その写真と同じ方角から見てみれば、北向きの窓の名残も確認できたのです（写真左）。六月には失われると聞いている池上アトリエは、実はアトリエ付き貸家が多く建ち並んだ時期、一九三六（昭和一一）年に建てられたものでした*。草が生い茂る谷端川沿いにぽつんと、けれどアトリエであることを大いに主張して建っている様子から、この写真は戦前に撮られたものではないかと推測されます。この写真は、建物のカギを管理されていた佐藤昭さんに見せていただきました。

今は地中を流れる谷端川は有楽町線千川駅近くの粟島神社を水源とし、大きくUの字に蛇行します。上流は北から南に向かい、途中で南から北に向きを変えます。その流れに沿って歩くと、板橋区との境が近い池上アトリエまではなかなかの距離がありました。それでも、このアトリエの写真を見て緑道を歩き、暗渠になる前の谷端川に思いをはせると、往時の作家たちの日々の往来が偲ばれ、それまでとは違った不思議な感覚に包まれるのです。

（美術　小林 未央子）

*「池上璉氏談話」『長崎アトリエ村史料』豊島区立郷土資料館、一九八七年、八頁。

「作品を見る読む」、「あの人もここを歩いた」に続き、ぶらぶら歩く新シリーズです。

区制90周年特別展「豊島大博覧会」記念イベント報告

佐野史郎×平井憲太郎　乱歩を語る

2023年3月11日（土）開催

レポート

二〇二三年三月一一日、区制九〇周年特別展「豊島大博覧会」の記念イベントとして、「佐野史郎×平井憲太郎　乱歩を語る」を開催しました。

第一部では、ドラマや映画、朗読などでこれまで数々の乱歩作品に携わられてきた佐野史郎氏をお招きし、江戸川乱歩が実際に池袋で体験した空襲をもとに描いた作品「防空壕」を朗読していただきました。第二部では、平井憲太郎氏（江戸川乱歩ご令孫）をお招きし、「乱歩と豊島区」をテーマに、お二人に対談していただきました。

定員の二倍の二一〇通のご応募をいただき、急遽定員を増やして抽選を行い、当日は一一三名の方にお集まりいただきました。応募ハガキには、佐野史郎氏へのメッセージや乱歩作品との出会い、作品への思いなどを書いてくださる方も多くいらっしゃいました。

朗読していただいた「防空壕」は、二部構成になっており、青年「市川清一」と老婆「宮園とみ」の、二人の視点から語られる、空襲の一夜の出来事を描いた短編小説です。

佐野史郎氏

平井憲太郎氏

佐野氏の朗読による「清一」の語りでは、文章で読むのとは違った迫力で、空襲の描写のこまやかさと、まるでその場にいるような恐ろしさや緊張感が迫る語り口が印象的でした。

「とみ」の語りに入ると、声だけでなく呼吸やテンポも変わり、前半とは一転、笑いが起きるなど会場全体の空気まで変わっていました。

第二部の対談では、乱歩作品の魅力である、どんでん返しについて触れられ、佐野氏が小学生の時に読んでいた「少年探偵団シリーズ」では、「信じていた人がそうじゃなかったとか、本当はこうだったのに全部違っていた」という「どんでん返しの美学」を乱歩作品で学んだといいます。今でもドラマの役を演じられる際に、「作家やシナリオライターやプロデューサーがこういうシーンでこういうつもりで書いているんだけれど、いやいや違うだろうと思って演じることもある」というエピソードを語ってくださいました。そんな乱歩作品の魅力の話から、乱歩が池袋へ引っ越してきた頃や戦争中の話が平井氏より語られました。乱歩が蔵にこもって蝋燭の灯で作品を書いていたという逸話は真実ではなく、また、佐野氏が以前訪れていた洋風の書斎も実際には編集者やお客様を通す場所で、乱歩自身は自室の座卓で書いていたというどんでん返しのエピソードが明かされ、会場中に笑いが起こっていました。

これまで、乱歩作品の登場人物としてその世界に入り込み演じられてきた佐野史郎氏と、孫として普段の生活を見てきた平井憲太郎氏の対談だからこそのエピソードが伺えました。

佐野様、平井様、そしてご来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。

（文学・マンガ　西方ゆり恵）

2023（令和５）年度豊島区立郷土資料館・芸術文化推進グループ事業予定
（2023 年４月～ 2024 年３月）

※今後の感染状況等により、休館や事業の中止あるいは事業内容や日程を変更する場合があります。
※詳細は『広報としま』、区ホームページなどで随時お知らせいたします。

特別展（３分野）	区制90周年特別展「豊島大博覧会～過去から学び、今日を生き、未来に希望～」	～５月28日(日)
収蔵資料展（郷土）	「関東大震災100年、新着資料展」	８月１日(火)～10月８日(日)
企画展（文学・マンガ）	「生誕100年　佐川美代太郎展～今こそ知りたい！「描く」ということ～」	10月28日(土)～１月14日(日)
収蔵作品資料展（美術・郷土）	「池袋モンパルナスが旅をする２―比べてみる！５つの窓から　新収蔵作品を中心に―」(仮)	２月１日(木)～３月24日(日)
	「暮らしの移り変わり」(仮)	
展示見どころ解説	常設展示等の見どころを、学芸員がわかりやすく解説します。 ※事前申し込み不要　直接会場へ	8月26日、10月28日、12月23日、2月24日 土曜日　14時～　40分程度
庁舎まるごとミュージアム（3階パネル展示）	美術分野 ①「絵画で観る！池袋駅古今東西」 ②「池袋モンパルナスが旅をする２　まるごとミュージアム編」	①～７月26日(水) ②７月27日(木)～2024年７月末予定
	郷土資料分野 ①区制90周年特別展「豊島大博覧会」ポスター	①～５月28日(日)
	文学・マンガ分野　※常設展示コーナーもあります。 ①区制90周年特別展「豊島大博覧会」ポスター ②「佐川美代太郎と豊島区」	①～５月28日(日) ②５月28日(日)～１月14日(日)
講座・講演・見学会など	第18回池袋モンパルナス回遊美術館特別講演会 東京・区立美術館ネットワーク連携事業 2023 豊島区×立教大学「隙間と隅っこで生き延びる　板橋区立美術館の40年」講師：松岡希代子氏	５月20日(土)
	文学・マンガ企画展関連事業 ①特別対談　②ワークショップ　③ギャラリートーク	①11月18日予定　②11月･12月予定 ③11月５日、12月３日、１月７日予定
	「豊島ミュージアム講座」(全4回)	２月～３月予定
刊行物	郷土資料館・芸術文化推進グループだより 「かたりべ」146号～148号	年３回、2,200 部、無償頒布 ８月・11月・２月刊行予定
	研究紀要『生活と文化』第33号〈付･2022年度年報〉	３月刊行予定　400部　有償頒布
	企画展図録『生誕100年　佐川美代太郎展』	10月刊行　1,000部　有償頒布
臨時休館・年末年始の休館	①収蔵資料展の開催に伴う休館 ②企画展の開催に伴う休館 ③年末年始の休館 ④収蔵作品資料展の開催に伴う休館	①５月29日(月)～７月31日(月) ②10月９日(月)～10月27日(金) ③12月28日(木)～１月４日(木) ④１月15日(月)～１月31日(水)

研究紀要『生活と文化』第32号＜付・2021年度年報＞価格1,100円　2023年3月発行
※郷土資料館（としま産業振興プラザ７階）・行政情報コーナー（区役所４階）にて販売しています。

「学童集団疎開（十二）敗戦から学童の帰還まで」　青木哲夫
「東福門院の葬儀に関する一考察」　谷橋啓太
「菅野二郎氏寄贈文書解題
　―戦後の教育資料と伊藤安静家資料（医家・法律家）を中心に―」　及川将基
「飯能倉庫への資料移動」　鄧　君龍

次回企画展のお知らせ

文学マンガ企画展
「生誕100年 佐川美代太郎展」
～今こそ知りたい！「描く」ということ～
2023年10月28日(土)
～2024年1月14日(日)

かたりべ
No.146
・
2023年8月25日
・
豊島区立郷土資料館
・
東京都豊島区西池袋2-37-4
としま産業振興プラザ7階
・
電話 03-3980-2351

編集後記

「かたりべ」一四六号をお届けします。
昨年一〇月一日に開催した区制九〇周年特別展「豊島大博覧会」は、会期を延長して五月二八日に無事終了しました。会期中の来館者は四四、三三六名にのぼり、サテライト会場とともに、世代をこえて多くの皆様にご見学いただきました。またアンケート調査でも概ね好評で、展示にまつわる情報をお寄せいただくなど、豊島区の歴史・文化の豊かさを再認識する機会となりました。展示協力者、関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。
八月一日から、常設展示の再開と収蔵資料展「関東大震災一〇〇年、新着資料展」が始まりました。初披露の資料を多数展示しています。皆様のご来館をお待ちしております。
（郷土　横山恵美）

SDGs未来都市としま
豊島区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。